

NEJIREBANE, No. 120, 10. May 2007

細川浩司氏採集による南西諸島のコメツキムシ

Elaterid-beetles from the Nansei Archipelago Collected by Mr. Koji HOSOKAWA in 2005

Takashi KISHII

岸井 尚

〒569-1044 大阪府高槻市上土室1-10 6-410

名古屋の細川浩司氏が1985年以来2005年まで、中部地方の高地帯を主とし本邦各地及び南西諸島の幾つかの島嶼で採集された多くのコメツキムシ科甲虫を、水野弘造氏を通して検討する機会を頂き、これまでにその大部分を本会の“地域甲虫自然史、第2号、2006: 1-89”で発表した。しかし更にその後、2005年6-7月の奄美大島・石垣島及び西表島で採集された標本と、所持しておられた久米島産の興味ある1種を検することとなったのでこれらまとめて報告する。分布及び分類上の問題点については、前記の自然史中で触れたものはその掲載ページを付記し除いた。また資料データについては細川氏ご自身の2005年採集のものが殆どなので採集年次と採集者名とは略し、一部それ以外のもののみ採集者名等を記した。また(LT)と付されたものはライト・トラップによるものである。今回も未記載と見られる種及び亜種が若干認められたので、これらについては別に発表することとする。終わり、にこれまでの細川氏と水野氏のご厚意に深く感謝の意を表する。

[奄美大島産] (Amami-ohshima Is., Amami Iss., Kagoshima Pref.)

Agrypnus (Agrypnus) miyakei miyakei OHIRA, 1967 ミヤケオオサビキコリ (写真1)

住用村丸畑 (LT), 1♂, 1. VII.

邦産のサビキコリ類としては最大級の種で(19~27mm)、前胸背板上にある特異なやや湾曲状の一对の細い横隆起により他種とは容易に区別できる。奄美大島と徳之島に分布し、やや小型な別亜種 *seinoi* オキナワオオサビキコリが沖縄本島本部町の八重岳から得られている。

Agrypnus (Sagojyo) yuppe (KISHII, 1964) ミゾムネヒメサビキコリ

住用村丸畑 (LT), 1♀, 1. VII. (自然史: 5, 写真6).

Adelocera (Brachylacon) difficilis (LEWIS, 1894) シロオビチビサビキコリ

瀬戸内町第2油井岳林道 (LT), 2 exs., 27. VI; 大和村今里, 1 ex., 28. VI; 住用村神屋, 2 exs., 29. VI; 2 exs., 30. VI; 同丸畑 (LT), 5 exs., 1. VII. (自然史: 6).

Lacon (Alaotypus) yayeyamanus (MIWA, 1934) ヤエヤマサビコメツキ

瀬戸内町第2油井岳林道 (LT), 1 ex., 27. VI; 住用村丸畑 (LT), 1 ex., 1. VII. (自然史: 7, 写真14).

Cryptalaus larvatus pini (LEWIS, 1894) フタモンウバタマコメツキ (写真2)

住用村丸畑 (LT), 1♀, 1. VII. (自然史: 8).

先島諸島から以南の東南アジアに広く分布する原名亜種 (写真28参照, 石垣島産) とは, 上翅末端はほぼ三角形の顕著な矢筈状に分離し, また一般に触角第3節が次節より幾分短小である. 北緯26度以北の本邦本土域の主として沿岸地と付属島嶼に広く分布し, 新潟・千葉が現在知られている分布北限であるが, 更に北進する可能性は強い.

Amamipenthes matobai KISHII, 1973 アマミホンチャコメツキ (写真3)

大和村今里 (LT), 1♀, 29. VI.

奄美大島八津野で得られた1雌個体で新属新種として記載され, 後に台湾とインドのシッキム及びダージリンからも異なる3種の分布が報ぜられた (KISHII, 1991: 8, 17-19; SCHIMMEL, 2004: 241-243; 2005: 245). 極めて稀な種で今回の記録は2例目と思われる. 前頭横溝が中央部でも広く明瞭で, 前胸後角の縦隆線は1本, 上翅後端は通常の形状で裁断されたり矢筈状にはならず, 会合線末端は小さく突出し, 前胸腹側板の側方後縁は明瞭に別られる. また本種の雄資料は未発見であるが, 台湾産の

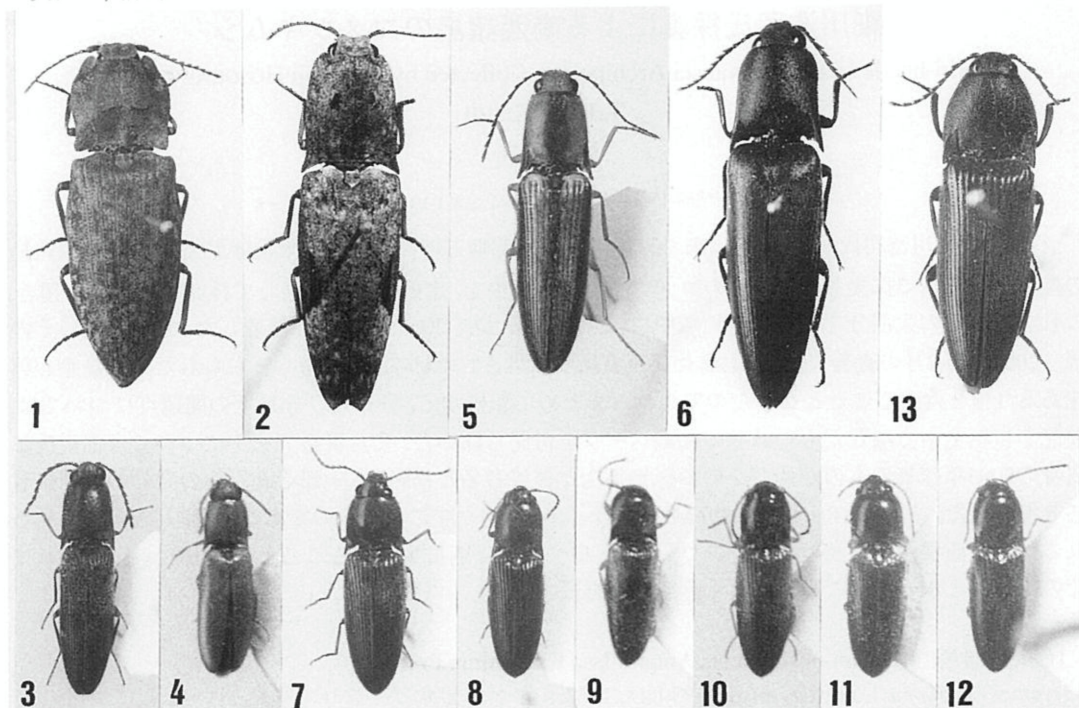


写真1-13. 1, ミヤケオオサビキコリ (奄美丸畑, ♂, 22.0mm); 2, フタモンウバタマコメツキ (奄美丸畑, ♀, 26.8mm); 3, アマミホンチャコメツキ (奄美今里, ♀, 9.1mm); 4, ナガオホソキコメツキ (奄美丸畑, ♀, 3.9mm); 5, クロヘリツヤコメツキ (奄美神屋, ♂, 14.4mm); 6, アマミフトナガコメツキ (奄美第二油井岳林道, ♂, 29.5mm); 7, シロウズクチプトコメツキ (奄美今里, ♂, 7.7mm); 8, オキナワムネアカクチボンコメツキ (奄美丸畑, ♀, 7.0mm); 9, エサキクチボンコメツキ (奄美神屋, ♀, 3.8mm); 10, キシイクチボンコメツキ (奄美丸畑, ♂, 4.1mm); 11, クチボンコメツキの一種 (奄美丸畑, ♀, 4.2mm); 12, マトバクチボンコメツキ (奄美第2油井岳林道, ♂, 4.4mm); 13, タカハシクシコメツキ (奄美今里, ♀, 18.0mm).

formosensis (KISHII, 1991: 18) の雄では触角第4節は細長く前2節合計長の1.5倍以上あり、また交尾器形状は *Megapenthes*, *Procraerus*, *Abelater* 等の近縁属に似るが、中片と側片前端部形状には本属特有と見られる異なる特徴が認められる (KISHII, 1991: 28, figs. 24a & 24b).

Agaripenthes nagaoi (OHIRA, 1968) ナガオホソキコメツキ (写真4)

住用村丸畑 (LT), 1 ♀, 1. VII.

徳之島と沖縄本島にも分布する本種は小型種で全身淡黄色のため、本邦本土全域と多くの主要島嶼に分布する *A. helvolus* ヒメホソキに極めてよく似るが、体形がより短大で肥厚度が強く、前胸背板点刻が大型の二重状で密布する。一般に本属は離島分布種が多く、それぞれの島特有の固有種が多い。なお当初は *Procraerus* 属種とされた *helvolus* を基本種として *Agaripenthes* 亜属が記載されたが、著しく小型な体形と触角節構造の特徴及び細型の雄交尾器形状などから、*Agaripenthes* を属に昇格する扱いは妥当と考えている (GURJEVA, 1973: 450; KISHII, 1999: 53-54).

Podeonius amamiensis (OHIRA, 1996) アマミアシプトコメツキ

住用村丸畑 (LT), 1 ♂, 1. VII.

北海道を除き本土に広く分布する *P. aquilus* クリイロニセコメツキに体色等がよく似た種で、本島にもその別亜種 *ryukyuensis* リュウキュウアシプトコメツキ (OHIRA, 1968: 134) が分布するが、本種は触角第3節以降の形状、前胸背板点刻の形態、雄生殖器官形状などに明瞭な違いがある。今のところ奄美大島以外からは知られていない。(自然史: 52, 検索表参照)。

Ludioschema vittiger fuscomarginatum (LEWIS, 1896) クロヘリツヤコメツキ (写真5)

瀬戸内町第2油井岳林道 (LT), 1 ♂, 27. VI; 住用村神屋 (LT), 1 ♂, 28. VI; 5 ♀♀, 29. VI; 1 ♀, 30. VI; 同丸畑 (LT), 3 ♂♂, 3 ♀♀, 1. VII.

原名亜種は朝鮮半島に分布し、本亜種は奄美大島を基産地として南西諸島に広く分布する。各種の花上に飛来する傾向が強い。(自然史: 57).

Nipponoelater babai seinoi (KISHII, 1987) アマミフトナガコメツキ (写真6)

瀬戸内町第2油井岳林道 (LT), 2 ♂♂, 27. VI.

沖縄本島と先島諸島に分布する原名亜種 (写真 22 参照, 西表島産) に比し、奄美大島と徳之島の個体群の雄触角第4-10節は先端に向かい順次小さくなり、側葉部は側方に伸長しない。従来、南西諸島のナガコメツキは台湾分布種を含め本土に広く分布する *sieboldi* オオナガコメツキとされていたが、この種は北海道から屋久島までに棲息する個体群に限ると見られる。また本種 *babai* は台湾にも分布し別亜種 *taiwanus* とされる。なお奄美大島には *sieboldi* に極めてよく似た、雄触角末端節が細長く第4-10節の側葉部が極めて鋭角的に伸長する個体群が分布し、当初 *sieboldi* の別亜種 *amami* アマミオオナガとされたが、現在は加計呂麻島を含む奄美大島固有の別種とされる。

Silesis shirozui KISHII, 1959 シロウズクチプトコメツキ (写真7)

大和村今里 (LT), 1 ex., 28. VI; 住用村神屋 (LT), 1 ♂, 1 ex., 29. VI; 同丸畑 (LT), 1 ex., 1. VII.

本土山地に広く分布する *musculus* クチプトの赤褐色型西南部個体群 (北部個体群は黒色のものが多い)、屋久島の *yaku* ヤククチプト、及び奄美諸島の本種は何れも体色・体形・生殖器形状が相互によく似る。奄美大島では普通の種で、喜界島と加計呂麻島および徳之島にも分布する。

Glyphonyx okinawanus CHŪJŌ, 1959 オキナワムネアカクチボソコメツキ (写真8)

住用村丸畑 (LT), 1 ♀, 1. VII.

奄美産の本属種としては大きく (体長 7-8mm)、*shibatai* シバタクチボソや屋久島の *kurosawai* ヤクシマクチボソとよく似た種である。本種は触角・脚部・前胸部と腹面が黄赤色から赤褐色で沖縄本島を基産地とするが、奄美の個体群は上翅色彩が明るく別亜種群の可能性もある。また本島からの既知本属種は8種で、今回未記載と見られる種もあるので更に増える可能性が高い。

Glyphonyx esakii MIWA, 1934 エサキクチボソコメツキ (写真9)

住用村神屋, 1 ♀, 30. VI; 同丸畑 (LT), 1 ex., 1. VII.

本種及び続く3種は *yoshimotoi* ヨシモトクチボソと共に奄美産としては小型 (体長 4mm前後) の

グループである。本種は黒色上翅の肩部から後方に明瞭な黄色縦条斑が上翅中央部前後まで伸びるので分かり易い。類似種として沖縄本島から記載された *ihai* イハクチボソ (OHIRA, 1968: 127-128, Okinawa: Yurujji) があるが、本種とは触角が短く、頭部と前胸背板点刻が共に深く疎で、前胸背後角の1隆起線は短く側縁基部1/3位の長さで異なるとされている。しかし後に記載者の記述した本邦産 *Glyphonyx* 種検索 (大平, 1971: 25) では *ihai* をその記載に合致する内容で奄美大島産とし、沖縄本島は示されていない。この検索では *esakii* と *ihai* の違いを前胸背板点刻が大型で深く密布するのが前者、小点刻を一樣に持つのが後者とされている。筆者は緒方健氏採集の奄美産本属種を検した際 *ihai* を記録したが (KISHII, 1983: 36)、これは明らかに上記検索に基づく筆者の短絡的誤認で、正しくはその資料は全て *esakii* で、細川氏蒐集の2005年以前の資料で記録した奄美大島産 *esakii* と同じで (岸井, 2006: 64)、*ihai* は沖縄本島固有で奄美には分布しないと見られる。

Glyphonyx kishiii OHIRA, 1968 キシイクチボソコメツキ (写真10)

住用村神屋, 1 ex., 30. VI; 同丸畑 (LT), 7 exs., 1. VII; 同 (LT), 1 ex., 1. VII.

ほぼ半世紀程前に、九州大学の白水隆先生が奄美大島で採集されたコメツキムシ資料を検した際、前種の記載内容に黄褐色の体色以外の特徴が類似する10頭の標本を *esakii* ?として報告 (KISHII, 1959: 63-64) したが、後に多くの資料に基づき新種として記載された (OHIRA, 1968: 128)。今のところ本島と徳之島の固有種で本島分布の本属種としては最も多く見られる種である。

Glyphonyx sp. クチボソコメツキ一種 (写真11)

住用村丸畑 (LT), 1 ♀, 1. VII.

前種に混じて一頭のみ得られ、大きさと体色等は類似するが、体幅はより広く、頭部及び前胸背板点刻は前種に似て単純であるが大きくやや密で、*esakii* では更に大型二重状で密布しない。最も異なるのは上翅間室が極めて明瞭な圧平状であること、前種のような弱い縦隆起状ではなく、前2種とは明らかに別種である。

Glyphonyx matobai KISHII, 1974 マトバクチボソコメツキ (写真12)

瀬戸内町第2油井岳林道 (LT), 1 ex., 27. VI; 住用村神屋, 1 ex., 30. VI.

本種は *yoshimotoi* ヨシモトクチボソと共に体色がほぼ黒色であるが、本種はより小型で前胸背後角部と上翅は茶褐色を帯び、触角末端節は両性共前胸後角端より短い。なお *yoshimotoi* では触角末端節は明らかに前胸後角端を越え、前胸背板点刻は単純でやや大きく前種より密である。今回は記載以後初めてのものとなる。

Melanotus takahashii KISHII, 1974 タカハシクシコメツキ (写真13)

大和村今里 (LT), 1 ♀, 29. VI; 住用村丸畑 (LT), 2 ♂♂, 1. VII.

雄生殖器形状がほぼ同形態なので本邦本土の普通種 *legatus* クシコメツキの亜種とされ、奄美大島及び沖縄本島産で記載された (KISHII, 1974: 12)。しかし他にも差異点が多く、後にこの地域特有の独立種と見なされた (KISHII, 1988a: 127-131)。現在、奄美大島と沖縄諸島の多くの島嶼からも知られる。口永良部島からも1頭のみ記録 (KISHII, 1988b: 181-182) があるが、これは報告時に述べているように奄美大島以南の個体群とは異なるようなので更に検討したい。

Spheniscosomus amamiensis amamiensis (OHIRA, 1967) アマミクシコメツキ

大和村今里, 1 ♀, 28. VI.

本邦本土全域に分布する *koikei* ヒラタクシに近似の種で、奄美大島と加計呂麻島に比較的普通に見られ、沖縄本島北部に別亜種 *yambarus* ヤンバルクシが分布する。

Quasimus satoi ogatai KISHII, 1985 オガタチビマメコメツキ

瀬戸内町第2油井岳林道 (LT), 1 ex., 27. VI.

本種サトウチビマメはトカラ列島中之島からの12頭 (holotypeを含む) と、奄美大島からの5頭で記載されたが (OHIRA, 1967a: 43)、後に屋久島からも知られ別亜種 *kimurai* キムラチビマメ (KISHII, 1970: 11-12)、及び奄美大島個体群も別亜種 *ogatai* (KISHII, 1985: 30) とされた。本種は体形が幅広の楕円形で上翅全体がやや赤褐色気味の個体が多いので分かり易い種で、小盾板圧平部は五角形に近く

原名亜種で最も幅が狭く、奄美亜種ではより幅が広いが共に最大幅より僅かに長く、屋久島亜種で幅は更に広く長さより広い。

[久米島産] (Kume Is., Okinawa Iss., Okinawa Pref.)

Tetrigus okinawensis OHIRA, 1967 ヒメクシヒゲコメツキ (写真 14)

1♀, 25. VIII. 1995, 竹下 富 leg.

久米島からの本属種は未発見で、*T. lewisi* オオクシヒゲまたは本種が分布する可能性は予見されたが、今回の雌は後者で、前者分布の可能性もあるだろう。久米島分布のコメツキムシ相としてはこれまでに 17種 (KISHII, 2004: 175; 種名不詳の*Quasimus* 種を含む) 記録されていて、これで 18種の棲息が判明したが、内 6種は久米島固有の種または亜種である。(自然史: 9, 写真 18)。

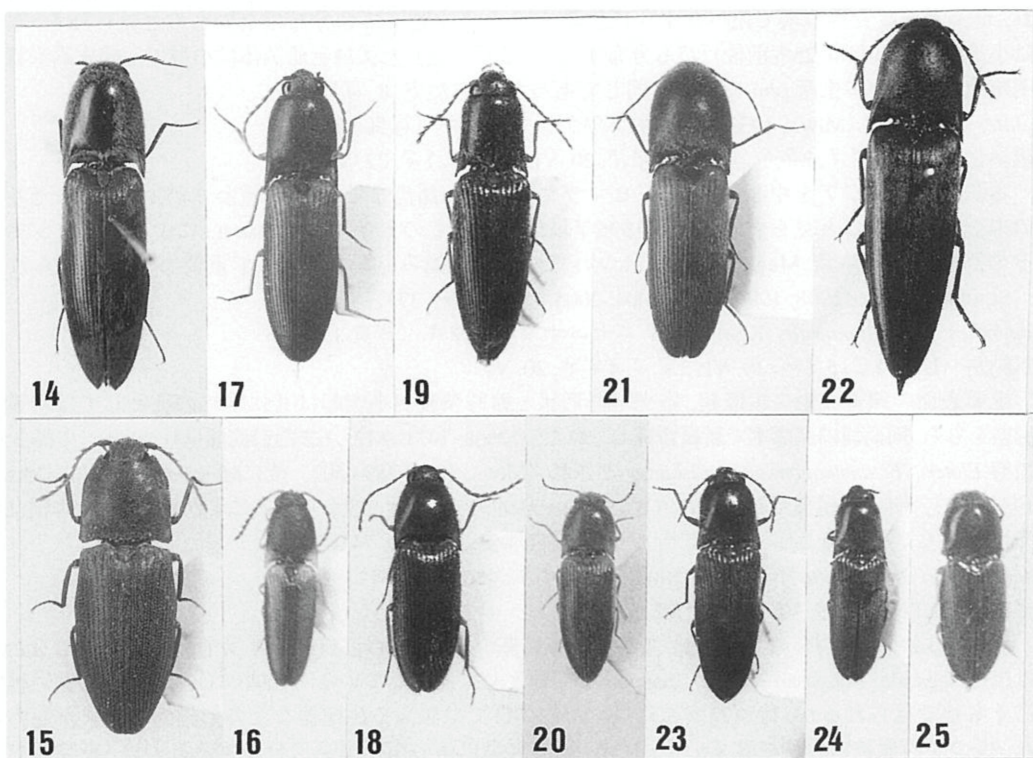


写真14-25. 14, ヒメクシヒゲコメツキ (久米島, ♀, 19.8mm); 15, サカグチホソサビキコリ (西表祖納岳, ♂, 10.7mm); 16, キバネツヤケシコメツキ (西表祖納岳, ♂, 4.7mm); 17, ニセコナガコメツキ (西表祖納岳, ♀, 13.8 mm); 18, クリイロニセコメツキ先島亜種 (西表祖納岳, ♂, 7.6mm); 19, オオウスカバイロコメツキ (西表祖納岳, ♂, 10.9mm); 20, ヒラヤマカバイロコメツキ (西表白浜林道, ♀, 5.3 mm); 21, ヒゲナガコメツキの一種 (西表祖納岳, ♀, 12.2 mm); 22, オキナワフトナガコメツキ (西表祖納岳, ♀, 26.2 mm); 23, ハテルマクチボソコメツキ (西表白浜林道, ♀, 9.5mm); 24, クチボソコメツキの一種 (西表相良川, ♀, 6.1mm); 25, チャバネコハナコメツキ (西表祖納岳, ♂, 4.0mm)。

[西表島産] (Iriomote Is., Sakishima Iss., Okinawa Pref.)

Agrypnus (Sabikorius) taciturnus ryukyensis KISHII, 1985 ミゾムネホソサビキコリ

祖納岳 (LT), 1♀, 19. VI. (自然史: 5, 写真 5)。

Agrypnus (Sagojyo) sakaguchii (MIWA, 1927) サカグチホソサビキコリ (写真 15)

祖納岳 (LT), 1♂, 19. VI.; 1♂, 20. VI.; 同白浜林道 (LT), 1♀, 21. VI.

南西諸島の多くの島嶼に分布する同じ亜属の*yuppe* ミゾムネヒメサビによく似ていて、体形がやや細く体色もやや淡い種である。以前*Compsolacon* 亜属とみなしたが (KISHII, 1999: 7), これはロシア南部産種が基準種で、腹面付節溝はなく、前胸側縁線は細溝状で上縁は単純な隆起線状、下縁は小

鈍歯の鋸歯状という独特な形状をもつ。本種のように前胸腹側板と後胸腹板に顕著な付節溝をもち、前胸側縁線が単純な隆起線のみのも種は本亜属と見られる。雄交尾器形状にも特に大差は認められず同系と見て良いと思われる。沖縄本島と先島諸島及び台湾に分布する。

Adelocera (Brachylacon) difficilis (LEWIS, 1894) シロオビチビサビキコリ

祖納岳 (LT), 12 exs., 19. VI; 5 exs., 20. VI. (自然史: 6).

Cryptalaus larvatus larvatus (CANDÈZE, 1874) オオフタモンウバタマコメツキ

上原, 1 ♀, 28. IV. 2003, TAKASHI MORI leg.

沖縄諸島以北で本州中央部までの分布が知られている別亜種 *pini* フタモンウバタマとは、ほぼ横に弱く別れた上翅末端形状で区別しやすいが (写真 28 参照, 石垣島産), 他にも大型個体では前胸形状などにも差異点が認められる。本邦での原名亜種と見られるものの分布域は先島諸島のみと見られ、奄美大島産資料の項で述べたように北緯 25~26 度を越えての分布はないものと見られる。本種は小笠原諸島 (北緯 25 度前後) にも分布するが、筆者の検した父島産雌個体は小型で上翅末端形状も明瞭な矢筈状の本土産 *pini* の個体と同じであった。(自然史: 8, 写真 15).

Abelater pulcherus (MIWA, 1933) キバネツヤケシコメツキ (写真 16)

祖納岳 (LT), 4 ♂♂, 2 ♀♀, 19. VI; 2 ♂♂, 20. VI; 相良川, 1 ♂, 22. VI.

本属は東南アジアを中心にインド・ヒマラヤから南西諸島までに 220 種余りが知られ、未だ多くの未記載種もあると見られる。特に 1996 年以降最近までのドイツの SCHIMMEL による東南アジアとその周辺地域の本族 *Megapenthini* についての研究が進み、多くの極めて重要な進展が見られた (SCHIMMEL: 1996, 1998, 1999, 2003, 2004, 2005). (自然史: 37).

Neopenthes pallidihumeralis KISHII, 1973 ニセコナガコメツキ (写真 17)

祖納岳 (LT), 1 ♂, 5 ♀♀, 19. VI; 3 ♂♂, 4 ♀♀, 20. VI.

上唇表面の顕著な中央縦隆起、雄交尾器形状と雌貯精囊内小突起は共に本族の種としては特異な形態をもち、同島浦内産標本で新属新種とされた (KISHII, 1973: 9-12). また台湾埔里社 (Puli) で得られ、当初 *Elater (Ectamenogonus) horishanus* とされ (MIWA, 1929: 489-450), 後に *Megapenthes* 種に (MIWA, 1934: 202), 更に本属種と認められ (W. SUZUKI, 1999: 151), 計 2 種からなることが判明した。本種は走光性が強く、石垣島と与那国島に分布する。(自然史: 37, 写真 74).

Haterumelater bicarinatus fukaishii OHIRA, 2005 サキシマチャイロコメツキ

祖納岳 (LT), 1 ♀, 19. VI; 1 ♂, 20. VI.

本種は LEWIS が本邦 (1869-1871) で得た標本に基づき、CANDÈZE (1873: 9) が記載したもので、LEWIS は後に Nagasaki, Maiyasan (Kobe), Sapporo を産地として記録している (1894: 41). 走光性の強い種で広く各地で見られるが、付属島嶼に棲息する個体群では触角や生殖器などの形態的な変異が認められ、幾つかの亜種に分割されている。従来、奄美大島以南の南西諸島に分布するものは、奄美産で記載された亜種 *shibatai* シバタチャイロとされていたが、先島諸島に分布する個体群では触角が短く、体色はより濃色で、交尾器側片先端の側方突起先端は *shibatai* では丸まるが、先島諸島のものでは鋭利に突出するなど、その他にも差異点が認められ、石垣島と与那国島のものも同じ特徴を持つので、最近上記のように先島特有の別亜種とされた (石垣島資料, 写真 30 を参照).

Podeonius aquilus subsp. クリイロニセコメツキ先島亜種 (写真 18)

祖納岳 (LT), 1 ♂, 2 ♀♀, 19. VI; 1 ♀, 20. VI.

石垣島と西表島産個体群は、奄美大島産に基づき本邦本土に広く分布する本種の南西諸島産別亜種 *ryukyuensis* リュウキュウアシプトとされていたが、触角・体表点刻・生殖器構造等に差異点が多く、石垣島からのものを含め別亜種個体群、或いは別種の可能性もある。(自然史: 50-52).

Chatanayus insularis insularis (MIWA, 1934) オオウスカバイロコメツキ (写真 19)

祖納岳 (LT), 5 ♂♂, 1 ♀, 19. VI; 6 ♂♂, 20. VI; 相良川, 1 ♀, 20. VI; 白浜林道 (LT), 2 ♂♂, 21. VI.

本属は FLEUTIAUX (1939: 124) により Tonkin 産の *Agonischius ruficollis* FLEUTIAUX, 1902 (nec. A. *ruficollis* SCHWARZ, 1900, = A. *fleutiauxi* SCHWARZ, 1906) を基準種として創設されたもので、*Agriotes*

カバイロコメツキ類に似た形態を持つが、上唇表面は点刻を欠き、前頭横隆線は弧状に伸長し大顎基部に接し、前胸腹板側縁溝前端には明瞭な小突起があり溝の内縁より前方に伸びる。雄交尾器側片は短大、側片先端の側方突起は多くの横皺を持ち、雌貯精囊内の角質構造はクシコメツキ類一部の種に類似する。本種は原名亜種が石垣島と西表島に、別亜種 *isai* マトバウスカバイロが奄美大島と沖縄本島に分布する。他に本州に2種 (*ishiharai* と *hidaensis*)、及び奄美大島に *ishiharai* ウスカバイロの亜種 *seinoi* セイノウスカバイロが産し、計3種2亜種が分布する。

Agriotes hirayamai MIWA, 1934 ヒラヤマカバイロコメツキ (写真 20)

祖納岳 (LT), 1♂, 2♀♀, 19. VI; 1♂, 1♀, 20. VI; 相良川, 1♂, 2♀♀, 20. VI; 2♀♀, 21. VI; 1♂, 1♀, 22. VI.; 白浜林道 (LT), 1♂, 1♀, 21. VI.

本属は北半球全域の中～北部で、主として草原地域に地表性中型 (10mm前後) の多くの種が分化し、本邦では北海道の *fuscicollis* (MIWA, 1928) トビイロムナボソと本州などの *ogurae* (LEWIS, 1894) チャイロムナボソが知られるが、これらは共にロシア極東域分布種 *subvittatus* (MOTSCHULSKY, 1859) とは極めて類似性の高い種で、その亜種個体群と見なされる (KISHII, 1999: 79)。一方、東南アジアで多くの種を持つ訪花性の小型種 (5mm前後) は本土に1種と南西諸島に2種知られ、台湾には少なくとも9種分布する。本種は1930年代の昆虫図譜著者としても著名な平山修二郎氏が、1932年5月に西表島で得た10頭の資料で記載された。通常、雄個体では体色が暗褐色のものが多く、雌では淡黄褐色のものが目立つ。先島諸島からのみ知られ個体数は極めて多い。

Ludioschema vittiger fuscomarginatum (LEWIS, 1896) クロヘリツヤコメツキ

祖納岳 (LT), 1♀, 19. VI; 1♀, 20. VI. (自然史: 57).

Mulsanteus sp. ヒゲナガコメツキ一種 (写真 21)

祖納岳 (LT), 3♀♀, 19. VI.

本州中央部から九州の照葉樹林帯での燈火採集で稀に得られる、同属の *linteatus* コヒゲナガを肥大化した体形と類似の色彩をもつ種で、南西諸島に広く分布する *aureopilosus* リュウキュウコナガ (写真 32参照、石垣島産) と似た点があるが、多くの点で未記載種と見られる。

Nipponoelater babai babai (KISHII, 1987) オキナワフトナガコメツキ (写真 22)

祖納岳 (LT), 1♀, 20. VI.

前述したように従来は本土産の *sieboldi* と同じものと見られていたが、多くの特徴から別の独立種とされ、台湾を含め南西諸島北部の奄美大島にも分布することが判明し、3亜種群に分けられている: *babai* (沖縄本島・石垣島・西表島), *seinoi* (奄美大島・徳之島), *taiwanus* (台湾)。

Glyphonyx haterumarum haterumarum OHIRA, 1968 ハテルマクチボソコメツキ (写真 23)

祖納岳 (LT), 1♂, 20. VI; 白浜林道 (LT), 5 exs., 21. VI.

西表島から記載され本属としては大きく強壯な体形で、色彩と共に一見クチボソコメツキ類の種によく似る。石垣島の個体群では体色が淡く別亜種 *takahashii* タカハシクチボソとされる。

Glyphonyx sp. クチボソコメツキ一種 (写真 24)

相良川, 1♀, 21. VI.

西表島からの本属種は前種、次種および *iriomotensis* イリオモテクチボソ、*tamurai* タムラクチボソの4種あるが、本種はその何れとも異なり沖縄本島産の *okinawanus* オキナワムネアカクチボソに体形が似るが、これと *tamurai* よりやや小さい。雌にしては長い触角と極めて微小で疎な前胸背板点刻は他に近似の種は見あたらず、多くの種が分布する台湾にも似たものは見られないので未記載種の可能性が高い。

Glyphonyx pallidipes MIWA, 1934 サキシマクチボソコメツキ

祖納岳 (LT), 1 ex., 19. VI; 相良川, 3 exs., 20. VI; 2 exs., 21. VI; 1 ex., 22. VI; 白浜林道 (LT), 1 ex., 21. VI.

西表島の資料で記載され、石垣島と共に先島諸島産の本属では最も多くの個体が得られる種だが、与那国島からは知られていない。(自然史: 64).

Spheniscosomus omotoensis (OHIRA, 1966) オモトクロクシコメツキ

白浜林道 (LT), 1 ♀, 21. VI. (自然史: 71, 写真 135).

Ryukyucardiophorus loochooensis (MIWA, 1934) チャバネコハナコメツキ (写真 25)

祖納岳 (LT), 2 ♂♂, 19. VI; 1 ♂, 20. VI.

南西諸島と台湾に分布する属で、小型、前胸側縁線は前縁の手前で消失、小盾板前縁は単純で中央陥没部はなく、爪基部は僅かに亀裂状となる等の特徴を持つ。沖縄本島と先島諸島に分布する本種及び台湾に分布する *babai* タイワンコハナ及びトカラ中之島固有の種 *tokarensis* トカラコハナとの3種が現在知られている。光沢が強く上翅肩部から後方に伸びる黄褐色縦条が顕著である。

[石垣島産] (*Ishigaki Is., Sakishima Iss., Okinawa Pref.*)

Campsosternus matsumurae MIWA, 1929 ヨツモンアオコメツキ (写真 26)

荒川 (LT), 2 ♂♂, 23. VI; 大田 (LT), 1 ♀, 23. VI.

本属は大型種が多く東南アジアを代表する美しいコメツキで、殆どの種の体表は強い光沢を持つ赤味を帯びた金緑色から青緑色である。固有の2種が先島諸島に分布し、本種は石垣島と西表島から知られ、普通では前胸背板前角部と後縁中央部に赤色斑を持つが、時にこの赤色斑を消失する個体もある。

Agrypnus (Agrypnus) scutellaris hamai OHIRA, 1967 サキシマシロモンサビキコリ

大田 (LT), 1 ♂, 23. VI; 野底林道 (LT), 2 ♂♂, 25. VI. (自然史: 4, 写真 3).

Agrypnus (Sabikikorius) taciturnus ryukyuensis KISHII, 1985 ミゾムネホソサビキコリ

大田 (LT), 1 ♀, 23. VI. (自然史: 5, 写真 5).

Agrypnus (Sagojyo) sakaguchii (MIWA, 1927) サカグチホソサビキコリ

底原 (LT), 1 ♀, 22. VI.

Adelocera (Brachylacon) difficilis (LEWIS, 1894) シロオビチビサビキコリ

野底林道 (LT), 1 ex., 25. VI. (自然史: 6).

Lacon (Alaotypus) churakagi (OHIRA, 1971) クロサビコメツキ (写真 27)

野底林道 (LT), 2 exs., 25. VI.

石垣島と西表島固有の種で、黒色の全身は黒褐色の鱗毛で被われるが、背面部には黄白色鱗毛が不規則な斑紋状に散在する。また前胸腹板の鱗毛は極めて長くやや疎である。

Cryptalaus larvatus larvatus (CANDÈZE, 1874) オオフトモンウバタマコメツキ (写真 28)

大田 (LT), 5 ♂♂, 1 ♀, 23. VI; 野底林道 (LT), 1 ♂, 25. VI; オモト岳, 1 ♀, 30. VI. 2003. (自然史: 8, 写真 15).

Tetrigus okinawensis OHIRA, 1967 ヒメクシヒゲコメツキ

荒川 (LT), 1 ♂, 23. VI. (自然史: 9, 写真 18).

Babdrasterius urabensis OHIRA, 1994 ウラベチビコメツキ

荒川 (LT), 1 ex., 23. VI; 真栄里ダム (LT), 1 ex., 24. VI. (自然史: 10, 写真 23).

Prodrasterius brachmanus (CANDÈZE, 1859) スジマダラチビコメツキ

野底林道 (LT), 1 ex., 25. VI. (自然史: 10, 写真 24).

Sephilus okinawensis KISHII, 1992 ヒラアシコメツキ (写真 29)

川平 (LT), 1 ♂, 25. VIII. 2005, 細川 翔太郎 leg.

先島諸島から本属の種が報告されたのは、西表島からの台湾原産の *S. formosanus* で (MIWA, 1933: 9), その後も多くの報告が石垣・西表両島からなされた (MIWA, 1934: 251; OHIRA, 1967b: 27; KISHII, 1972: 6; CHUJO, 1973: 25). しかしこの種と先島諸島の個体群間には明らかな形態的差異点が多く見られ上記名称が付された。また同時にオモト岳からは別の小型種 *tanakai* コガタヒラアシも見いだされた。今回の資料は体長が11mmでやや小さく一見後者に似るが、雄生殖器側片先端部形態は明らかに前者と同じで本種と見なされる。

Neopenthes pallidihumeralis KISHII, 1973 ニセコナガコメツキ

屋良部岳 (LT), 1♀, 24. VI. (自然史: 37, 写真 74).

Haterumelater bicarinatus fukaishii OHIRA, 2005 サキシマチャイロコメツキ (写真 30)

底原 (LT), 1♂, 3♀♀, 22. VI; 屋良部岳 (LT), 1♂, 24. VI.

前述の西表島産と共に先島産個体群はトカラ列島, 奄美諸島, 沖縄諸島などの南西諸島中北部域に分布する亜種 *shibatai* シバタチャイロとは別の亜種と見なされる。

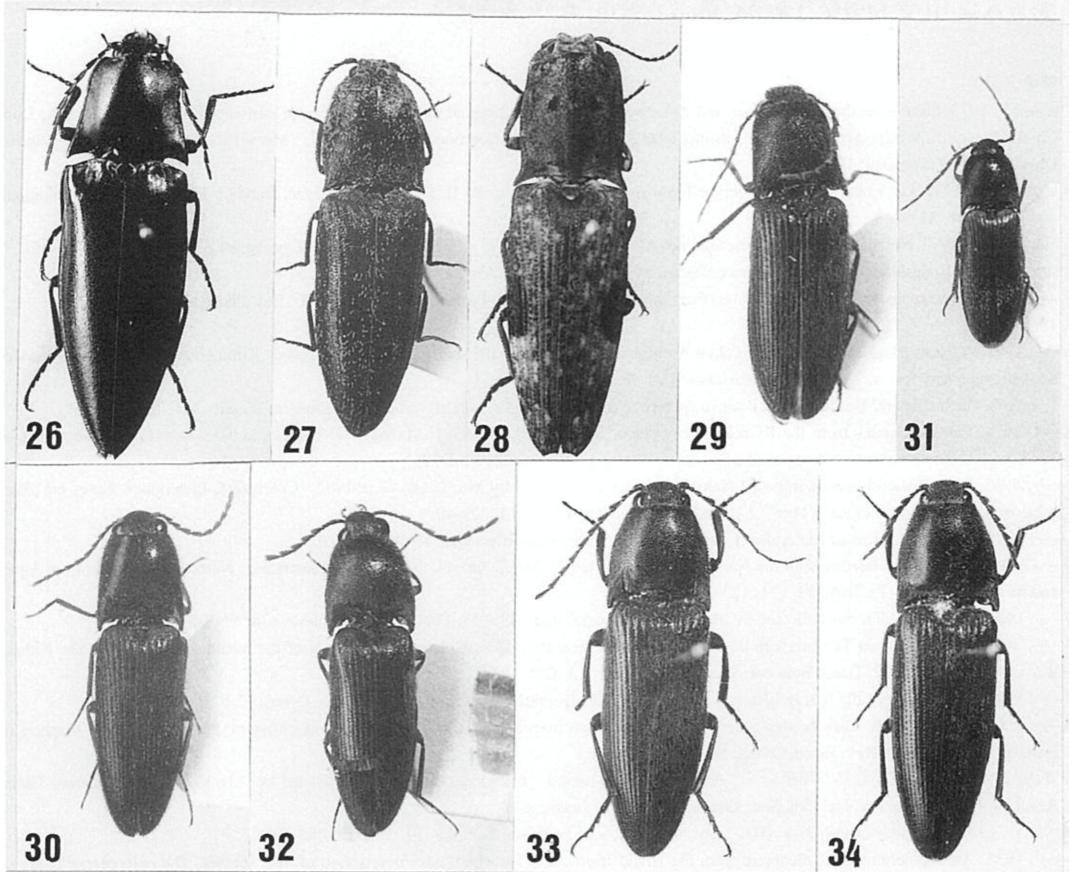


写真26-34. 26, ヨツモンアオコメツキ (石垣荒川, ♂, 27.8mm); 27, クロサビコメツキ (石垣野底林道, ♂, 18.2mm); 28, オオフトモンウバタマコメツキ (石垣オモト岳, ♀, 25.2mm); 29, ヒラアシコメツキ (石垣川平, ♂, 11.0mm); 30, サキシマチャイロコメツキ (石垣屋良部岳, ♂, 10.0mm); 31, クライロアシプトコメツキ先島亜種 (石垣真栄里ダム, ♂, 8.1mm); 32, リュウキュウコナガコメツキ (石垣米原, ♂, 12.2mm); 33, ヤエヤマクシコメツキ (石垣大田, ♂, 17.8mm); 34, オモトクロクシコメツキ (石垣野底林道, ♀, 20.5mm).

Chastanus castaneus subsp. クライロアシプトコメツキ先島亜種 (写真 31)

底原 (LT), 1♀, 22. VI; 真栄里ダム (LT), 1♂, 24. VI.

近似の *Podeonius aquilus ryukyuensis* リュウキュウアシプトによく似ているが, 触角第3節は明らかに次節より短小, 前胸背板点刻が大型二重状で密布する点などで容易に区別できる。本種は奄美大島住用村産に基づき記載され, 徳之島と沖縄本島及び石垣・西表の先島諸島までの分布も報告されている。しかし先島諸島分布の個体群は奄美産のものより一般に小型で, 雄交尾器にも差異点が認められ, 本種の別亜種かまたは独立別種の可能性が強い。(自然史: 52, 検索表)。

Chatanayus insularis insularis (MIWA, 1934) オオウスカバイロコメツキ

底原 (LT), 1♀, 22. VI; 野底林道 (LT), 2♂♂, 25. VI.

Mulsanteus aureopilosus (MIWA, 1934) リュウキュウコナガコメツキ (写真 32)

米原 (LT), 1♂, 25. VI; 荒川 (LT), 1♀, 26. VI. (自然史: 58, 写真 116)。

Nipponoelater babai babai (KISHII, 1987) オキナワフトナガコメツキ

大田 (LT), 2♂♂, 23. VI; 野底林道 (LT), 2♂♂, 1♀, 25. VI.

Melanotus yayeyamacola KISHII, 1974 ヤエヤマ (写真33)

大田 (LT), 2♂♂, 23. VI; 米原 (LT), 1♂, 25. VI. (自然史: 70, 写真132).

Spheniscosomus omotoensis (OHIRA, 1966) オモトクロクシコメツキ (写真34)

野底林道 (LT), 4♂♂, 1♀, 25. VI. (自然史: 71, 写真135).

<参考文献>

- CHŪJŌ, M., 1973. Studies on the classification and zoogeographical distributions of the family Elateridae (Insecta-Coleoptera) from the Loochoo (Ryukyu) Archipelago (including Satsuma Islands). Coleoptera of Loochoo Archipelago (V). Mem. Fac. Lib. Arts & Educ., Kagawa Univ., II, 218, Takamatsu: 17-41.
- FLEUTIAUX, E., 1939. Les Elaterides de l'Indochine Francaise, septieme partie, XVII. Subfam. Agriotinae. Annales de la Societe entomologique de France, 108: 121-148.
- GURJEVA, E. L., 1973. Novaja Triva zhukov-shchelkunov Megapenthini Tribus n. (Col. Elateridae). Zoologicheskii Zhurnal, 51 (3): 448-451.
- KISHII, T., 1959. Elateridae of Amami-Oshima collected by Prof. T. SHIROZU. AKITU, Kyoto, 8 (3): 57-66.
- , 1970. On the genus Yukoana and Quasimus from Japan. Some new forms of Elateridae in Japan (VII). Bull. Heian High School, Kyoto, 15: 1-28.
- , 1972. A list of Elaterid-fauna from Ryukyu Archipelago collected by the society of scientific survey, Kinki University, with the descriptions of some new forms. The Snappers of islands (V). *ibid.*, 16: 1-12.
- , 1973. On the Elaterid-Beetles from Ryukyu Archipelago collected by Mr. Isao MATOBA. The Snappers of Island (VI). *ibid.*, 17: 1-24.
- , 1974. Elaterid-beetles from the Ryukyu Archipelago, collected by Messrs. I. MATOBA, O. TAMURA and T. TAKAHASHI in the spring of 1973, with some new forms and notes. The Snappers of Island (VII). *ibid.*, 18: 1-19.
- , 1983. Some Elaterid beetles from the Nansei Archipelago collected by Mr. T. OGATA in 1982 (Coleoptera, Elateridae). Notes on Elateridae from Japan and its adjacent area (2). Ent. Rev. Japan, Osaka, 38 (1): 29-40.
- , 1985. Some new forms of Elateridae in Japan (XVII). Bull. Heian High Sch., Kyoto, 29: 1-30.
- , 1988a. Some click-beetles from the Nansei Islands collected by Mr. T. OGATA (Coleoptera: Elateridae). Notes on Elateridae from Japan and its adjacent area (7). *ibid.*, 43 (2): 123-134.
- , 1988b. On some Elaterids collected by Mr. Shigeto YAMAYA. *ibid.*, 43 (2): 179-184 (In Japanese with english description).
- , 1991. Elateridae from Taiwan, with descriptions of some new taxa (5) (Coleoptera). A study of the materials collected by Dr. Kintaro BABA from 1986 to 1989. Trans. Essa ent. Soc. Niigata, (71): 3-32.
- , 1999. A check-list of the family Elateridae from Japan (Coleoptera). Bull. Heian High Sch., Kyoto, 42: 1-144.
- , 2004. A study on the click beetles collected by Mr. M. YAGI from Kume Is. in the Okinawas (Coleoptera: Elateridae). (The snappers of Islands, VIII). The Ent. Rev. Japan, Osaka, 59 (2): 167-176.
- 岸井尚, 2006. 細川浩司氏蒐集の邦産コメツキムシ. Elaterid-beetles (Elateridae, Coleoptera) collected by Mr. Koji Hosokawa from Japan. Reg. Nat. Hist. Coleoptera. Jap. Col. Soc., Osaka, 2: 1-89 (In Japanese).
- MIWA, Y., 1929. Elateridae of Formosa (II). Trans. nat. Hist. Soc. Formosa, Taihoku, 19, (105): 485-495.
- , 1933. An enumeration of Coleoptera from the Island Iriomote in Loochoo, with description of new species. The coleopteran fauna of Loochoo, I. *ibid.*, 23, (124): 4-9.
- , 1934. The fauna of Elateridae in the Japanese Empire. Rep. Dep. Agr., Govn. res. Inst., Formosa, 65, Taihoku: 1-289.
- OHIRA, H., 1967a. The Elateridae of the Ryukyu Archipelago, II (Coleoptera). Bull. Aichi Univ. Educ., Okazaki, Ent. Rev. Japan, Osaka, 19 (2): 1-48.
- , 1967b. The Elateridae of the Ryukyu Archipelago, III (Coleoptera). Bull. Jap. ent. Acad., Nagoya, 3 (5): 27-38.
- , 1968. The Elateridae of the Ryukyu Archipelago, IV (Coleoptera). Bull. Aichi Univ. Educ., Okazaki, XVII (Nat. Sci.): 123-134.
- , 1971. On some Elaterid-beetles from the Ryukyu Archipelago (Coleoptera). Pacific Insects, Hawaii, 13 (3-4): 531-543.
- 大平仁夫, 1971. 日本のコメツキムシ (X). 昆虫と自然, ニュー・サイエンス社, 東京, 6 (11): 20-25.
- SHIMMEL, R., 1996. Neue *Procrærus*-Arten sowie eine neue Art aus der neuenn Gattung *Martiniana carinata* n. gen. et n. sp. aus Suddost-Asien (Insecta: Coleoptera: Elateridae). Mit. POLLICHA, 83: 283-290.
- , 1998. Neue und wenig bekannte Elateriden sowie eine neue Gattung, *Acumenator* n. gen., aus Sudostasien (Insecta: Coleoptera, Elateridae). *ibid.*, 85: 235-259.
- , 1999. Die Megapenthini-Arten Sud- und Sudostasiens. Erster Teil: *Procrærus*, *Ectamenogonus*, *Xanthopenthes*, *Dolonolus* n. gen., *Girardelater* n. gen. und *Preusselater* n. gen. (Insecta: Coleoptera, Elateridae). POLLICHA-Buch Nr. 38, S. Bad Durkheim: POLLICHA: 1-299.
- , 2003. Die Megapenthini-Arten Sud- und Sudostasiens. Zweiter Teil: *Acumenator*, *Anchastelater*, *Dicarinator*, *Gamepenthies*, *Ganaxanthus*, *Martiniana* und *Simodactylus* (Insecta: Coleoptera, Elateridae). *ibid.*, Nr. 42, S. Bad Durkheim: POLLICHA: 1-261.
- , 2004. Die Megapenthini-Arten Sud- und Sudostasiens. Dritter Teil: *Abelater*, *Amamipenthes*, *Cateanus* n. gen., *Friedrichiellus* n. gen., *Hayekpenthies*, *Megapenthies*, *Melanoxanthus*, *Pengamethes*, *Platianeus* n. gen., *Sawadapenthes* und *Wallaceus* n. gen. (Insecta: Coleoptera,

Elateridae). *ibid.*, 45, S, Bad Durkheim: POLLICHIA: 1-504.

-----, 2005. Die Megapenthini-Arten Sud- und Sudostasiens. Vierter Teil: Phylogese, Zoogeographie und Katalog. *ibid.*, Nr. 48, S, Bad Durkheim: POLLICHIA: 1-411.

SUZUKI, W., 1999. Catalogue of the family Elateridae (Coleoptera) of Taiwan. *Miscel. Rep. Hiwa Mus. nat.Hist.*, 38: 1-348.

兵庫県由良町成ヶ島の海浜性甲虫類の記録

The List of Marine Coleoptera Collected from Narugashima Is., Hyogo Prefecture, Central Japan

Yasuko KAWAKAMI

河上康子

〒569-0826 大阪府高槻市寿町2-30-9

調査地と調査方法

成ヶ島は、兵庫県淡路島の東南端にある由良港から100mほど沖に位置する、全長2.5kmの砂州の島である(図1)。南北に細長い小さな島であるが、島内にはハマゴウ・ハマボウ・ハママツナ・ハマウツボなどの、海浜植生や塩性湿地の貴重な植物群落を有する。外洋に面した浜にはアカウミガメが産卵に上がり、由良湾側の磯ではタワヤモリも確認されている。本島の調査はこれまで、植物や海岸生物について多く行われてきたが、昆虫相の調査はほとんど行われていない。筆者は、2005年9月16日と2006年7月29日に当地での海浜の甲虫相調査を行う機会を得たので、その結果を報告する。調査は由良港の内湾に面する島の西側の海浜と、紀淡海峡に面する東側の海浜で行った。西側の海浜の砂は粗く礫浜も含み、後背にはハマボウの群落と小規模な塩性湿地がある。東側の海浜は粒度が細かく、後背にはハマゴウの群落が見られた。いずれの地点も干潮時に、砂浜や干潟に打ちあがった海藻・ごみの下、転石や礫の下、および海浜植生の根際からルッキングで甲虫類を採集した。

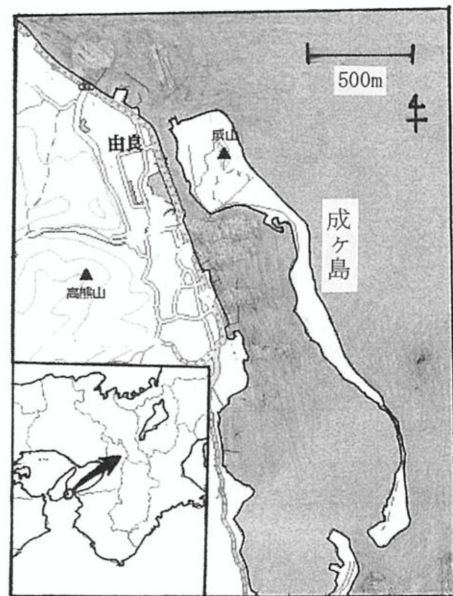


図1. 調査地 (兵庫県由良町成ヶ島)

結果と考察

調査結果をリストに示す。9科25種の甲虫目が採集され、そのうち海浜に特異的に生息する海浜性種は48% (12種) を占めた。大阪湾近郊の海浜において海浜植生を持つ砂浜11地点の平均値は28% (河上ほか, 2004) であることから、成ヶ島の海浜が近郊の海浜に比較して、海浜性種の生息により適した環境を持つことが推測される。

淡路島からの甲虫目の記録はこれまでに76科655種 (高橋, 1998; 高橋, 1999; 高橋, 2000) が、また淡路島の海浜からは17科79種 (河上ほか, 2004) が報告されており、今回新たに6種 (リスト中の☆印で示す) を追加した。このうちハネカクシ科の海浜性種であるホソウミベハネカクシ *Cafius algarum* SHARP とウミセミゾハネカクシ *Myrmecopora algarum* (SHARP) は、播磨灘、大阪湾、紀伊水道を含めた海域における初めての記録になる (河上ほか, 2004)。この2種は日本海側の島根

半島では局所的に多産し、とくにウミセミズハネカクシは砂浜には見出されず、礫浜や磯の水際から採集される(河上・林, 2007)。今回の成ヶ島での記録も、島の西側の礫浜から採集された。淡路島を含めた大阪湾近郊の沿岸部の海浜は、多くが海水浴用の人工ビーチであり礫浜が少ない。成ヶ島に残る礫浜や磯は小規模ながら、これらの環境に適応した甲虫類の生息場所を保持していることが考えられる。

謝辞

報告にあたり、コメツキムシ科を同定いただいた岸井尚博士(高槻市)に深謝申しあげる。また、成ヶ島での調査の便宜をいただき、成ヶ島に関する情報を教示いただいた花野晃一氏(成ヶ島を美しくする会)、村上健太郎博士(きしわだ自然資料館)、平田慎一郎博士(きしわだ自然資料館)、福西勝之氏(大阪市)に心より感謝申しあげる。

採集リスト

採集者はすべて河上。標本はきしわだ自然資料館と一部を同定者が所蔵する。※印は海浜性種を、☆印は淡路島からの未記録種を示す。

CARABIDAE オサムシ科

- ※*Scarites aterrimus* MORAWITZ ヒョウタンゴミムシ (1ex., 29. VII. 2006)
- Platymetopus flavilabris* (FABRICIUS) カラカネゴモクムシ (1ex., 16. IX. 2005)
- ☆*Perigona nigriceps* (DEJEAN) クロズホナシゴミムシ (1ex., 16. IX. 2005)

HYDROPHILIDAE ガムシ科

- ※*Cercyon aptus* SHARP コケシガムシ (1ex., 16. IX. 2005)
- ※*Cercyon dux* SHARP フチトリケシガムシ (1ex., 16. IX. 2005)
- Sternolophus rufipes* (FABRICIUS) ヒメガムシ (1ex., 16. IX. 2005)

HISTERIDAE エンマムシ科

- Merohister jekeli* (MARSEUL) エンマムシ (1ex., 16. IX. 2005)

STAPHYLINIDAE ハネカクシ科

- ☆*Medon prolixus* (SHARP) (和名なし) (2exs., 16. IX. 2005)
- ※*Cafius vestitus* (SHARP) アバタウミベハネカクシ (1ex., 29. VII. 2006)
- ※*Cafius histrio* (SHARP) ホソアバタウミベハネカクシ (1ex., 16. IX. 2005; 1ex., 29. VII. 2006)
- ※☆*Cafius algarum* SHARP ホソウミベハネカクシ (2exs., 16. IX. 2005)
- ※*Phucobius simulator* SHARP ウミベアカバハネカクシ (8exs., 16. IX. 2005)
- ※☆*Myrmecopora algarum* (SHARP) ウミセミズハネカクシ (1ex., 16. IX. 2005)

ELATERIDAE コメツキムシ科

- ※*Agrypnus tsushimensis* OHIRA ツシマヒメサビキコリ (25exs., 16. IX. 2005)
- Aeoloderma agnatum* (CANDÉZE) マダラチビコメツキ (2exs., 16. IX. 2005)
- Paracardiophorus opacus* (LEWIS) クロコハナコメツキ (1ex., 16. IX. 2005)

COCCINELLIDAE テントウムシ科

- Coccinella septempunctata* LINNÉ ナナホシテントウ (2exs., 16. IX. 2005)

TENEBRIONIDAE ゴミムシダマシ科

- ☆*Pedinus japonicus* SEIDLITZ ゴモクムシダマシ (6exs., 16. IX. 2005)
- ※*Idisia vestita* MARSEUL ニセハマヒョウタンゴミムシダマシ (19exs., 29. VII. 2006)
- Gonocephalum coriaceum* MOTSCHULSKY コスナゴミムシダマシ (5exs., 16. IX. 2005)
- Gonocephalum coenosum* KASZAB ヤマトスナゴミムシダマシ (6exs., 16. IX. 2005; 1ex., 29. VII.

2006)

※*Gonocephalum pubens* MARSEUL オオスナゴミムシダマシ (7exs., 16. IX. 2005)☆*Alphitobius diaperinus* (PANZER) ガイマイゴミムシダマシ (1ex., 16. IX. 2005)

ANTHICIDAE アリモドキ科

Anthelephila cribriceps (MARSEUL) ケオビアリモドキ (5exs., 16. IX. 2005)

CURCULIONIDAE ゾウムシ科

※*Scepticus uniformis* KONO トビイロヒョウタンゾウムシ (5exs., 16. IX. 2005)

<引用文献>

河上康子・林成多, 2007. 日本海沿岸の海岸性甲虫類の研究 (2) 島根半島. ホシザキグリーン財団研究報告, (10) : 37-76.

河上康子・大橋和典・稲畑憲昭, 2004. 兵庫県播磨灘沿岸と和歌山県紀伊水道の海浜性甲虫おおよび種構成と海浜環境の関係に関する検討. 大阪市立自然史博物館研究報告, (58) : 19-46.

高橋壽郎, 1998. 淡路島産甲虫目録 (1) .PARNASSIUS, (47) : 1-10; 1999. 淡路島産甲虫目録 (2) .PARNASSIUS, (48) : 1-16; 2000. 淡路島産甲虫目録 (3) .PARNASSIUS, (49) : 1-16.

Megalopaederus 属ハネカクシの分布についてOn the Distribution of the Species of *Megalopaederus* (Staphylinidae, Coleoptera)

Tateo ITO

伊藤建夫

〒614-8371 京都府八幡市男山雄徳7 E12-102

北隆館「原色昆虫大図鑑」(第2巻) 1963年6月30日初版発行, 頁87 (第44図版) に, *Paederus poweri* SHARP アリガタハネカクシとして, 分布に四国 (小豆島) が掲げられている. この根拠になったと思われる標本が, 大阪市立自然史博物館の標本所蔵庫から見つかり, その標本を検鏡する機会があったので, その結果と, 同属の分布の処置について報告する.

標本データと検鏡結果は以下である.

Megalopaederus wadai SCHEERPELTZ ワダアリガタハネカクシ

1♂, Kankakei, Syodoshima, Kagawa, Japan, 5-VI-1955,

Y.OKADA leg. (大阪市立自然史博物館所蔵).

Megalopaederus wadai SCHEERPELTZ ワダアリガタハネカクシの分布は本州, 九州が知られている. 小豆島からは新記録となる.

なお, このことにより, *Megalopaederus poweri* (SHARP) アリガタハネカクシの四国 (小豆島) からの記録は抹消されるのが妥当だと考える.

最後に, 所蔵の標本を検する機会を与えられた大阪市立自然史博物館と初宿成彦学芸員に敬意と謝意を表する.



ワダアリガタハネカクシ (小豆島産)
大阪市立自然史博物館所蔵

虫屋の広場 (44)

地域別総合甲虫目録

◎ 区市町村単位目録・小地域目録

01. 岡山県阿波村黒岩高原
 - ・青野孝昭(2004), 岡山県黒岩高原の甲虫採集記録, すずむし, (139): 15-23. [32科, 199種]
02. 新潟県朝日村
 - ・小池寛・三浦晃子(2005), 岩船郡朝日村の甲虫類・補遺(1), 越佐昆虫同好会報, (94): 33-43. [追加42種, データ補充92種] [合計: 725種] [cf. 小池寛・島田久隆(1998), 越佐昆虫同好会報, (77): 35-69. (683種)]
03. 愛知県安城市
 - ・安城市史編集委員会(2005), 「新編安城市史11, 資料編自然別冊, 安城市動物目録」211pp. 昆虫綱: 79-143. コウチュウ目(佐藤正孝ら): 116-142. [39科, 293種]
04. 東京都港区
 - ・野村周平・平野幸彦(2005), 赤坂御用地ならびに常磐松御用邸の昆虫相, 国立科博専報, (39): 183-223. (次の別報を包含.) (赤坂) [59科, 353種] 野村周平・森本桂, ゾウムシ: 173-181. 野村・丸山・新井, ハネカクシ: 161-171.
05. 東京都渋谷区
 - ・野村周平・平野幸彦(2005), 赤坂御用地ならびに常磐松御用邸の昆虫相, 国立科博専報, (39): 183-223. (次の別報を包含.) (常磐松) [36科, 143種] 野村周平・森本桂, ゾウムシ: 173-181. 野村・丸山・新井, ハネカクシ: 161-171.
06. 愛知県豊田市
 - ・田中蕃ら(8名)(2005), 「豊田市自然環境基礎調査報告書<昆虫編>」(豊田市). 昆虫類: 181-386. [22目, 449科, 5710種]. コウチュウ目: 蟹江昇: 161-236. [101科, 1826種]
07. 和歌山県田辺市
 - ・的場績・久保田信(2005), 田辺市新庄公園の灯火に飛来した甲虫, KINOKUNI, (68): 13-21. [23科, 90種]
08. 埼玉県嵐山町
 - ・新井浩二(2005), 嵐山町の甲虫類, 嵐山町博物誌調査報告, (10): 117-183. [85科, 1148種]
09. 佐賀県嬉野町
 - ・西田光康(2004), 藤津郡嬉野町岩屋川内ダム周辺で得られた甲虫類, 佐賀の昆虫, (40): 815-818. [84種]
10. 佐賀県七山村
 - ・城戸克弥(2005), 佐賀県七山村浮岳の甲虫類[III], 佐賀の昆虫, (41): 49-62. [350種] (合計) [575種]
11. 鹿児島県南大隅町
 - ・城戸克弥・小田正明(2005), 鹿児島県稲尾岳山麓で採集した甲虫類 I, KORASANA, (73): 37-54. [245種]
12. 山口県周防大島町
 - ・田中馨・伴一利(2006), 屋代島(周防大島町)のコウチュウ目録, 山口のむし, (5): 31-42. [45科, 237種]
13. 島根県隠岐の島町
 - ・林成多ら(6名)(2006), 隠岐諸島の昆虫相に関する一資料—2005年8月7-10日に島後で採集・観察した昆虫類の目録—, ホシザグリーン財団研究報告, (9): 245-263. [10目, 304種] コウチュウ目: 254-261. [39科, 195種] (水野弘造)

会務報告

行事報告 (日本甲虫学会2006年度大会)

2006年の甲虫学会大会は、例年通り師走の第二日曜日の12月10日に、大阪市立自然史博物館で行われた。10時からの自由懇談はお互い珍品の採集などの談義で賑った。13時より会務報告があり、最初に佐々治寛之会長・佐藤正孝先生の逝去を悼み、全員黙祷を行った。会誌発行状況の説明・会計報告等は問題なく承された。今年是一部運営委員の交代があり、大会で承認された。会長の後任は愛媛大学農学部の大林延夫教授にお願いすることになり、全会一致で承認された。本大会は、公開講演(日本甲虫学会・大阪市立自然史博物館共催)とし、著名な解剖学者の養老孟司先生の特別講演「ムシの壁」(故・佐々治会長が演題名をつけられた)が14時から16時まで行われ、その後ポスター発表が5題あった(注)。博物館の集会所では入りきれないので、ネイチャーホールで開催され、あらかじめ申し込み受付を行って入場者を制限するほどの盛況であった。出席者：279名(内、会員56名；寄書記者)。



養老先生は、若い時から甲虫学会に入会されていて、現在も会員として現役のアマチュア甲虫研究者である。ヒゲボソゾウムシの分類・分布の研究に精をだされている。なぜヒゲボソゾウムシ

のような分類の難しいものを対象に研究しているのかという理由はまったく単純なこと、自分の標本を気前よく人様にあげていたら、標本箱に残ったものがヒゲボソゾウムシだったからだのお話であり、昆虫分類と脳の働きの養老哲学を印象深く講演された。

運営委員会の発案で、先生の講演に対する謝礼としてヒゲボソゾウムシを有志の会員が進呈することになり、春の例会から全会員にお願いしていたところ、多くの標本が提供され、先に集まったものは大会前に宅急便で送呈していた。大会当日に集まった標本はかなりの量にかかわらず、先生がご自身で持ち帰られ、ホテルで見ておられたと聞く。また懇親会(あべの近鉄「桃谷楼」)でもムシの話をされ、著書にサインをいただくなど、まったく気さくな虫屋の仲間であった。忙しい先生ではあるが、機会があれば、例会・採集会にも参加して甲虫談義をしていただきたいと願っている。なお今回の養

老先生の特別講演は秋田勝己氏のご尽力をきっかけとして実現したことを付記して運営委員会からの謝意としたい。

(安井通宏)

(注) ポスター発表

P-1 アヤスジミゾドロムシ(甲虫目ヒメドロムシ科)の生態学的知見 林 成多(ホシザキグリーン財団); P-2 岡山県から発見された特異なナガチビゴミムシ属の盲目種 芦田 久(関西チビゴミ研究グループ、京都大学大学院生命科学研究科); P-3 大和川・石川水系のミズギワゴミムシ類の種類相と分布状況 安井通宏・初宿成彦・大阪市立自然史博物館「大和川水系調査グループ」



プロジェクトY」甲虫班; P-4 甲虫研究における立体写真の活用 沢田佳久(兵庫県人と自然博); P-5 ツガ樹上の捕食性甲虫群集について 初宿成彦(大阪市自然史博)・宮武頼夫(関西大)・M. Montgomery (USDA, Forest Service)

会計(収支決算)

2006年度(平成18年度)収支決算書
(自2006年1月1日 至2006年12月31日)

収入の部		支出の部	
年会費	1,357,000	印刷代	1,299,900
バックナンバー代	44,000	会誌送料	184,910
別刷代・著者負担金	208,250	別刷送料	16,560
大会参加費	9,000	交換雑誌送料	60,770
		行事費	94,170
		編集関係諸費	36,090
		渉外費(分担金・慶弔)	50,210
		庶務費(封筒・ラベル)	32,225
		会議費	2,760
前年度繰越金	1,364,250	次年度繰越金	1,207,665
計	2,982,500	計	2,982,500

以上の通り報告します。(会計 野村英世)

ねじればね120号 Nejirebane No. 120

2007年5月10日 10. May 2007

発行者: 日本甲虫学会 The Japan Coleopterological Society
 発行所: 日本甲虫学会 〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23
 大阪市立自然史博物館・昆虫研究室気付
 Entomological Laboratory, Osaka Museum of Natural History, Osaka, 546-0034, Japan
 振替口座: 00990-8-39672 URL: <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/jcs.html>
 Tel: 06-6697-6221 Fax: 06-6697-6225 E-mail: shiyake@mus-nh.city.osaka.jp

編集: 伊藤建夫, 林 靖彦, 谷角素彦, 初宿成彦, 保科英人, 安井通宏
 原稿送付先: 伊藤建夫 〒614-8371 八幡市男山雄徳7 E12-102 Tel. (Fax) 075-983-3491
 E-mail: itokyoto@gb3.so-net.ne.jp (和文 E-mailでの投稿を歓迎します)
 入会及び会費問合せ先: 野村英世 〒590-0144 堺市赤坂台1-18-5 Tel. 0722-98-4066
 (年会費: A会員5,000円; B会員6,000円)
 昆虫学評論原稿送付先(英文): 林 靖彦 〒666-0116 川西市水明台3-1-73 Tel. 0727-93-3712
 E-mail: hayashiy@silver.ocn.ne.jp